

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成29年度病害虫発生予察注意報第8号について

平成29年度病害虫発生予察注意報第8号を発表したので送付します。

平成29年度病害虫発生予察注意報第8号

平成30年2月2日
宮 崎 県

病害虫名 灰色かび病

作物名 冬春トマト

1 発生地域 県下全域

2 発生量 やや多

3 注意報の根拠

1) 1月中旬の巡回調査における発生面積率は40.0%（前年10.0%、平年26.8%）、発病株率は4.8%（前年0.9%、平年2.3%）で、いずれも平年に比べてやや多の発生であった（図1、2）。

果実の発生面積率は20.0%（前年0%、平年7%）、発病果率は0.5%（前年0.0%、平年0.16%）で、いずれも平年に比べてやや多の発生であった（図3、4）

発生面積率、発病株率ともに過去10年同時期で2番目に高くなっている。

2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並みから少ない予報であるが、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台1月25日発表1ヶ月予報）。

3) 平成29年12月25日付で病害虫防除情報第10号を発表し、防除を呼びかけたが、その後も平年より発生が多い状況で推移している。

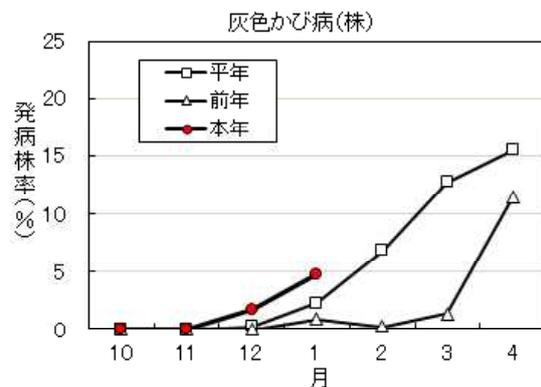
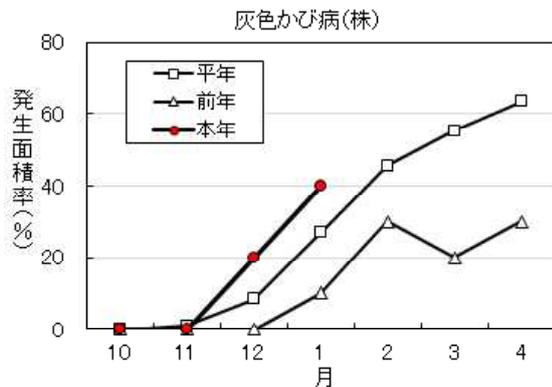


図1 巡回調査における発生面積率の推移

図2 巡回調査における発病株率の推移

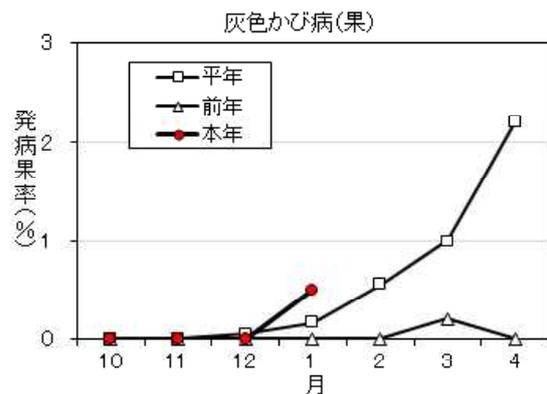
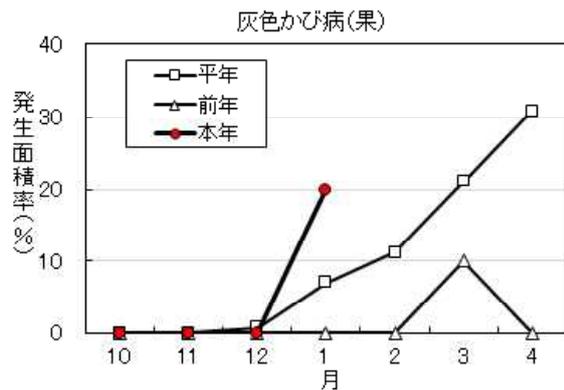


図3 巡回調査における果実発生面積の推移 図4 巡回調査における発病果率の推移

4 防除上の注意

- 1) 内張カーテン等の設置により、ハウス内が過湿状態となりやすいので、適宜加温機を作動させるなどして、できるだけハウス内の乾燥に努める。
- 2) 茎葉の過繁茂は、発病を助長するので、可能な限り摘葉を行い、日当たりや風通しを良くし、薬剤が付着しやすいようにする。
- 3) 発病した果実や葉は、できるだけほ場から持ち出したのち、薬剤による防除を行う。薬剤の付着ムラがあると、防除効果が上がりにくいので、丁寧に散布する。散布の際は、同一系統の薬剤を連続散布しないよう注意する。
- 4) 灰色かび病菌は、多くの薬剤に対する耐性菌の発生が確認されているので、防除効果が認められない場合は、使用を中止し、他系統の薬剤に切り替える。
- 5) ハウス内湿度が高いときは、葉かび病、すすかび病、疫病なども発生しやすくなる。いずれの病害も多発生してからの防除は困難なので、初発生を見逃さないよう、ほ場内をよく確認し、予防を中心に防除を行う。

●農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課
 (病虫害防除・肥料検査センター) 久野
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp